

2	〇	〇	3	1	1	〇	〇	1	〇	〇	2	3	1	〇	1	〇	5	1	2	1	1	1	2	3	〇	〇	〇	5	1	〇	1
③②	③①	③①	②⑨	②⑧	②⑦	②⑥	②⑤	②④	②③	②②	②①	②①	①⑨	①⑧	①⑦	①⑥	①⑤	①④	①③	①②	①①	①①	①①	①②	①③	①⑦	①⑥	①⑤	①④	①③	①②
梅が香や 仁王の真似する 異国の子	冬晴れの 空ゆくめだか どこへ飛ぶ	久々に晴天つらぬく ドライバー	五指さぐる 空名刺受(からめいしいれ)	梅が香や 見上ぐる先の 白き花	目白交(か)う 枝刺し梅花も 春の香	梅の木の ピンクに煙る 時来たる	一投目全ピン散りて 心地良く	春電車 脚組む女の 髪短し	草しみず 花大文字 石を抱く	冬の草 朝露玉や 星冴ゆる	百合の樹や 冬日傾き 影長く	寒詣り 足袋装束や 夜半の鼓(おと)	幸せが ふとまいおる 梅の花	冬テニス 眩しき太陽 日向ぼこ	春三番 記憶は八十路に たどりつく	数ふえた 節分の豆 ためいきや	茅葺きの 屋根に被さる 梅の花	また来たね 落ち葉の陰の 落の臺	霜日和 続けらるるか このラリー	桐一葉 ゆるりと歩く 影法師	熱々の 鍋焼きうどん 舌鼓	追いかけた 予報がはずれ 春しゅう雨	朝雨や しずく光れる 枝垂れ梅	天窓に 飛行機の影 春兆す	冬木立ち ひとりで歩く カサカサと	すべりおり 溜まる落ち葉や 秋の蝶	コンポスト めおとのねぐら 嫁が君	蠟梅や 木に取り付くる ネオンかな	早春の 梅の里行く 高尾山	② チチと鳴く すずめのこえに春おもう	① 山の端の薄紫や 初日さす